

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寄り添い、耳を傾け、笑顔を忘れることなく生活できるよう共に歩みます」の理念を共有しながら日々目標に添える努力をしている。	事業所全体で作上げた理念を基に利用者の状況変化及び地域密着型の意義や役割を考え、各ユニットの職員全員でケア目標について話し合いを行っている。具体的なケアについて意見の統一を図り、その理念を共有しながら日々のサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に一度行われる「地域のお茶の間」への参加や年1回の「海力フェ」に来ていただいたり、地域で行われる行事等に参加している。	地域の人々とは単に挨拶を交わすのみではなく、事業所は地域住民の一員として現時点では事情により難しい状況にあるが、地域行事への参加は勿論、「地域の茶の間」へも継続的参加支援に努めている。その折の食事会も楽しんでもらう等、今まで培ってきた利用者と地域との繋がりを意識した支援を心掛けている。近隣の方々には畑づくりの手伝いをしていたり、野菜のおすそ分けをいただいたりと、日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ出向き、認知症の方とに直接的にかかわる事が出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動内容や、利用状況等を毎回報告し、意見交換等行っている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、運営状況の報告後、メンバーから多角的な視点からの意見や助言、要望等、有益なアドバイスもいただき双方向的な会議となるよう心がけ、サービス向上に活かしている。今後は会議録について家族へも配布し、会議内容についての理解を得ていきたいと意欲的に考えている。	運営推進会議では事業所からの報告と共に参加メンバーから意見や要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。今後は家族へも会議録を送付し、事業所の現状についての理解をしてもらうとともに、意見もいただきながらサービス向上に具体的に活かしていくことが期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他にも、相談できる関係になっており、他の事業所との交流も深まっている。	市の担当者とは日ごろから連携を密に図っている。運営推進会議にも出席してもらい助言等いただいたり、利用者の生活の様子も見てもらうなど、気軽に何でも相談できる関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言や職員論理をマニュアルや玄関前に掲示。身体拘束適正化委員会を開催し、職員会議等周知できるようにしている。	「オンデマンド」研修で身体拘束をしないケアについて学び理解を深めている。業務の中での気づきについては職員会議の中で話し合いながら利用者の安全に努め、利用者にとって抑圧感のない自由な暮らしを支えている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学び、理解を深め防止に向けた取り組みを行っている。また、入浴時、オムツ交換時には身体チェックを行いながら報告し合っている。	定期的に研修会で学び虐待防止についての理解を深めている。また、入浴時やおむつ交換時の身体チェックも行い、お互いに報告しあっている。管理者は職員が心身共に安定して業務に就けるよう、様子をみながらお互いに相談し合える関係作りに努める等の工夫を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している利用者様が居る為関係者と話し合いながら、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事の説明と契約書の説明を十分に行い、入居前には事前にホームを案内し理解、納得した上で契約して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等日頃からコミュニケーションをとり意見等言いやすい雰囲気を常に心掛けている。また、毎月「家族への手紙」を職員に書いてもらい利用者様の日常をお伝えしている。	家族面会時には気軽に話しやすい雰囲気づくりに努め、状況報告と共に意見を伺っている。また、ケアプラン変更時にも意見や要望を伺う等、自然な関係性の構築に配慮している。利用者からは日々の何気ない会話に耳を傾け、意見や要望把握に努め、いただいた意見は会議で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回「意見だしシート」を提出してもらい、自らのHit&Error、相談や提案等を記入してもらっている。	毎月1回職員は「意見だしシート」を提出し、ユニット会議や職員会議で意見や要望を聞いている。その他、年1回のアンケート調査の中からも意見や要望をくみ取るようにしている。管理者とは気軽に話しやすい関係性にあり、会議の中では有意義な意見交換がなされ運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は会議を通して施設や職員の様子を把握できるように努めている。また、職員の働く環境整備に力を入れており、職員個々で働きやすい環境整備するため、職員からの要望も聞いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修やオンデマンド研修を行い職員の質の向上に努めている。また、資格習得にも支援制度があり、個々が意欲をもって取り組んで行けるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回、GH管理者意見交換会を開催し、情報交換を行っている。また、年1回の交流会を行い職員同士の悩み事等共有している。また、ラン伴への参加も行っている		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ、家族からの情報を頂き、サービスを開始する前段階で意向を聞き、本人の発する言葉や表情等に耳を傾け、要望等を聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、どのような対応が可能か話し合いを行い、入居後の様子も報告する様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階の今、必要とする対応をご本人やご家族、職員の意見を取り入れながら支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に分かち合う関係に留意しながら、食事づくり、家事作業を行って頂き、穏やかな生活が送れるようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には一緒にお茶を飲んで頂いたり、クリスマス会や誕生会に参加して頂くなど支援していたが、コロナウイルスの状況のもと、今現在はオンライン面会を実施している。	年2回の広報誌には利用者の生活ぶりや外出、行事開催時の写真を載せて家族に送付している。また、面会時には和やかにお茶を飲みながらゆっくり過ごしてもらっているが、現在は感染症事情により「オンライン」面会となっている。以前は本人と共に居室内に写真を掲示したり、自宅外泊を通しての協力も得られ、共に本人を支えていく姿勢で、今後もより良い関係性を構築していけるための支援に努めていた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお茶の間への参加や外泊、外出への支援を継続していたが、今現在行える状況ではない	入居前に本人、家族から馴染みの人や場に関する情報を把握している。また、これまで培ってきた馴染みの人との関係が継続出来るように面会の奨励にも努め、家族の理解と協力を得て外出、外泊も実現出来ていたが、コロナ禍により現在は実現困難である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や行動を理解し、楽しく穏やかに過ごして頂けるよう気の合う者同士関係が保てるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前、入居されていたご家族から畑づくりや、備品への支援等あり、また知り合いの方の入居の申し込みをして下さったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に「暮らしの情報」をご家族様に記入して頂き、本人やご家族、ケアマネージャーからも情報を頂き、把握できるようにしている。	入居前に利用者、家族、前事業者からの情報を得て本人の思いや意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な場合は、日々の生活行動など記録し、本人を主体とした今迄の暮らしが継続できるよう職員間で共有し日々のケアに繋げている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の好きな食べ物や趣味など暮らしの延長に役立てるよう努力している	本人、家族、前担当者から暮らしの状況を得て、日々の生活の中でその人らしい暮らしが継続できるよう把握に努めている。「暮らしの情報シート」を活用し、畑で野菜作り収穫や手芸、紙工作など、楽しみの中から、有する力を発揮できるよう継続的な生活支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで報告し、把握できるようにしている。気づいた点、気になる点についてはユニット会議で意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画のアセスメントやモニタリング評価は居室担当職員が担当している。ユニット会議等で話し合い介護計画の作成に繋がっている。	毎月居室担当と計画作成者が中心となり、ユニット会議を開催し、利用者の状況把握に努めている。本人、家族の意見や要望を聞く場を設け話し合いながら、本人に応じた生活が継続できるよう現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送り、支援経過等で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に即した対応を行っている。家族との外食の支援なども行っている。その時々で柔軟な対応ができるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお茶の間や行事へ参加し、交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医が近隣でもあり、月1回の定期往診に加え、週2回の訪問看護があり、24時間体制で嘱託医と連携出来る様になっている	委託医となっている協力医療機関が吉浦地区内にあり医療機関として協力をいただいている。月1回の定期往診に加え週2回の訪問看護や緊急時の受診や医療的な相談など臨機応変に対応してもらうなど、適切な医療が受けられる体制が構築されている。医療に関しては利用者、家族、職員とも恵まれた環境で受診支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回嘱託医から、ナースが訪問され適切なアドバイスを受けられる体制になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医が医療機関と連携し、入院等に繋がっている。また、職員が様子を見に行ったりケースワーカーとの連携もスムーズに行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	嘱託医とムンテラを行い、施設で出来る事や家族の希望を最優先し、同意を得て看取りを行っている。	終末期支援については、入居時、本人、家族に看取り介護の「重度化対応・終末期ケア対応方針」を示し、事業所としてできることや家族の希望を聞き、説明し、同意を得ている。終末期には病状説明と本人、家族の望む支援に努め、委託医と連携を図りながら、終末期に向けた体制に努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時にはベル番、管理者、嘱託医に連絡し指示を仰いで対応している	急変や事故発生時に備え、研修や消防署協力を得て新人職員を含め定期的に訓練を行い確認している。緊急時マニュアルはコーナーに設置し、慌てることなく、委託医や看護師とも常時連携できる体制準備を整えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、村上市の防災訓練にも参加している。また、避難用の備品の確保も見直している	年間防災計画に従い年2回避難訓練を実施している。村上市主催の訓練にも参加している。津波時の避難場所への誘導も目の前に羽越線の鉄道線路や傾斜面の多い山間地は困難な面もあるが、避難方法については職員間で検討されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に細心の注意を図り、その時々に応じた対応を行っている。	プライバシー保護のマニュアルの整備や研修を実施し、利用者個々の行動を制限せず言葉遣いや目線など、ひとり一人の人格を尊重し気持ちに沿った対応に努めている。職員の言葉や動作についてもお互いに気づきの声掛けを行い、利用者の気持ちを大切に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様一人一人の思いを尊重し、自己決定できるような言葉かけを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、それぞれに好きな時間を過ごせるよう本人の要望に合わせ過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容や季節感のある服装を心掛け、整容の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬の物を取り入れ、献立は職員が交代で作っている。季節の物を頂く事もありその時々に合わせて調理する事もある。誕生日には本人の希望メニューを取り入れている	献立は旬の食材を使い季節感を盛り込んだ利用者好みの食事が提供されている。周りは畑が多く野菜等の貰い物もあり、メニュー変更もあり得ること。利用者個々の力を活かしながら職員と共に行う食事作りは、在宅生活の延長線上にあるように生き生きとして楽しいひと時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分量をチェックし、個々の状態を見ながら調整している。また、個々に応じ食事形態を換えたり、時間をずらしたりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々に応じ対応している。義歯の方は夕食後にお預かりし、洗浄している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、時間でトイレ誘導を行っている。失敗が軽減できるよう支援している。	利用者個々の排泄チェック表を活用し、誘導時間を個々に合わせ、できる、できない部分を把握し、さりげない声掛け実践を行っている。全職員が共通した排泄ケアに向き合い、自立に向けた支援と機能低下予防の取り組みに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便については、毎日の申し送りで職員が周知できるようにしている。乳製品や水分等で調整したり内服等の調整も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の午後から、一般浴、特浴と曜日ごとに分けて入浴して頂いている。その時々に合わせて臨機応変に対応できるようにしている	入浴は午後入浴となっている。機械浴と個浴があるが、安全に入浴できる環境に努め、手すり、滑り止めマット、シャワーチェアの設置確認を行うなど、事故防止への配慮もなされている。終末期には、清拭を行なうなど柔軟な対応に努めている。。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や本人の希望等も聞き、個々に休息出来る時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の用法、用量、副作用等書かれたファイルを閲覧できるようにしている。また、職員全員が把握できるよう、薬詰めを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好み、能力に合った作業を提供し、負担にならない程度に役割を持って頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域からの誘いや行事への参加、バスハイクや「海カフェ」もオープンし、気分転換して頂いていたが、今は実現できていない。	現在は中止しているが、地域のお茶の間や村上大祭などへ車椅子の方も一緒に出掛けるなど、季節に応じた外出を楽しむ機会を設けている。リビング、廊下には外出時の思い出の写真が掲示され、その表情からも楽しさが窺われる。地域の方との交流の場として「海カフェ」の開催と共に、地域との輪が広がることに期待できる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の金銭管理は管理者が行っているが、外出する際は買い物ができるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時掛けられ、家族や知人からの電話も取り次いでいる。また、手紙の代読も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感あふれる飾り付けを、毎月職員が手作りしている。廊下には長椅子を設置し、外を眺めたり写真を見たりできる場所にしている。	共有空間は明るく、目の前は海、山に囲まれ、夕方は佐渡、粟島の灯台の明かりを眺め四季を通し楽しむことができる。リビングには畳スペース、ソファもあり、海府ならではの生活感を感じる家庭的な雰囲気が醸し出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が楽しめるように、くつろぐスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の要望に応じて馴染みの品々を自由に持ち込んで頂いており、居心地の良い居室づくりに努めている	本人、家族と相談し、普段から使い慣れた馴染みの物や思い出の品物、装飾品等が飾られている。窓から粟島、佐渡を眺め、日が沈む時まで、思い思いの品々に囲まれた環境の中で、ゆったりとした心安らぐ場の配慮がされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来る事」「わかる事」を見出し、職員間で情報を共有している。ご自分でできる事は出来る限り行って頂く様支援している。		